



進路だより 第727号
平成27年1月16日
多治見高校進路指導部

さあ本番だ！

ついに明日のセンター試験から二ヶ月にわたる一般入試が始まります。三年生は再度各自の入試日程（手続き日程）を確認しておきましょう。一、二年生は先輩たちの様子を見て、来年、再来年の自分の姿を想像してください。

さて三年生は先週のセンター試験説明会で確認した事項について再度掲載するので、最終チェックをして本番に臨んでください。

1.試験日程に関すること

- ・試験教室への入室は開始時間の15分前（地歴・公民は25分前、リスニングは5分前）。
- ・開始後20分を過ぎると受験不可（リスニングは開始時間以後は不可）。
- ・地歴・公民、理科で二科目受験する生徒は一科目目開始時間から入室する。
- ・緊急事態が生じたら受験票に記載された電話に速やかに連絡をして指示を仰ぐ。
- ・保護者に送迎してもらう場合は高校から離れた場所で乗降する。
- ・空き時間は控え室で静かに自習する。ゴミは各自持ち帰る。

2.持ち物に関すること

- ・「受験上の注意」のp20で確認する（受験票、下履きを入れる袋、時計、昼食に注意）。
- ・コンパス、定規は不可。ティッシュペーパーは袋や箱から取り出して中身だけ。
- ・携帯電話はオフにしてカバンの中にする（身に着けていると不正行為となる）。
- ・ICプレーヤー、イヤホン、音声メモリーは持ち帰り禁止。

3.解答に関すること

- ・マークする箇所が間違っていないかを時々確認しながら解答する。
- ・マークのまとめ塗り厳禁。問題冊子に確実に転記する。
- ・解答科目名を間違いなくマークする（「新課程」の科目にマーク）。
- ・地歴・公民、理科で第一解答科目と第二解答科目を間違えないようにする。
- ・「解答はじめ」、「解答やめ」やリスニングの進行について、監督者の指示に従う。

4.その他

- ・終了後は振り返らない。答え合わせをしない。出来不出来に関する会話は厳禁。
- ・困ったことがあったら、監督者に訊くか、桔梗会館に来て相談する。
- ・「前向きでチャレンジする気持ち」を忘れない。適度な緊張感をもって臨む。
- ・19日（月）は絶対に休まない。遅刻しない。問題冊子を忘れない。（文責：今井雅）

『1年の窓』 2年後に挑戦するセンター試験、今回は特徴的な点を紹介します。

特徴①結果がいくつもの大学の合否に影響！

センター試験の結果は国公立大学の前・中・後期入試に加え、私立大学の入試にも利用できます。いい点が取ればその後の受験がとても有利に進むことになります。だからこそ1年生の今からセンター試験を意識した勉強が必要です。

特徴②試験時間が長い！

例えば、理科と社会は最大で140分間ほど席を立つことができません。また、英語のリスニングテストは30分間、延々と聞き続けなければいけません。想像してみてください。大事なテストに緊張する中での試験時間の長さ…普段50分の授業ですら集中できていない人はいませんか。学習に対する集中力をつけることも重要です。センター試験に向けて今からできることは？

（文責 谷）

『2年の窓』

受験生としての意識はありますか？

受験まであと12ヶ月あると思いませんか？早い人であと9か月です。受験校を決め時期も考えれば、もう3年生になってからなんて言えるはずがありません。この先60年間に大きな影響を与える1年であることを常に意識しなさい。

さて、センター試験の次の週（1/24（土））には全員受験の今年度最後の記述の進研模試があります。まずは復習からです。特に、なかなか得点が取れない科目は後回しになりがちです。苦手科目への取り組み方ですが、まずは逃げずに目を向けることがスタートです。そして、**「考査や模試結果を用いて、自分がどの分野をできていないのか調べましょう。」**場合によっては先生に直接質問し、**「理解していないところから「自主」学習をしましょう。」**確かに苦手科目の勉強は大変ですが、**「苦手科目の得点がUPすることが、将来への近道」**です。（文責 竹腰）

『3年の窓』

いよいよセンター試験がやってきました。（既に推薦入試やAO入試を経験した人達もいますが）、ほとんどの人にとって、最初に経験する本物の入試です。国公立志望の人にとっては勿論重要ですが、私立大学志望の人にとっても今後の入試に勢いをつける大事な試験になります。緊張するのも無理は無いですが、プレッシャーを味方につけて実力以上の力を是非発揮してください。

桔梗祭も、最後のステージ練習が終わった段階で「マジか！こんなんでも本番大丈夫なんか!?!」と不安で押しつぶされそうだったけれど、どのクラスも素晴らしいステージ発表が出来ました。過信、油断は禁物ですが、今までの努力を思い出し自らの潜在能力を爆発させよう！

センター試験が終われば、すぐ私立大学の入試が始まります。合格通知がなかなかもらえず、毎日が緊張の連続となり、強い焦燥感と孤独感に苛まれることもあるかもしれません。だが、どんなに苦しくても歩き続ければ必ず前に進むことが出来ます。全力の挑戦を続ける限り可能性は必ず存在します。早く着くか遅く着くかの違いこそあれ、いつかは目的地にたどり着くことが出来ます。勝利の喜びの大きさはそれまでに流した血と汗と涙の量に比例します。明日はゴールではない。長い長い道のりのスタートです。恐れず気負わず、前を見て走ろう！（文責：鈴木貴博）

○文系の窓○ 皆に問いたい。人はなぜ学ぶのか？

今年のNHK大河ドラマ『花燃ゆ』の第1回放送の後半、吉田寅次郎(のちの松陰)が長州藩の藩校「明倫館」で若い藩士に問いかけるシーンのセリフです。

皆に問いたい。人はなぜ学ぶのか？

私はこう考えます。

学ぶのは知識を得るためでも職を得るためでも出世のためでもない。

人にもものを教えるためでも人から尊敬されるためでもない。

己のためじゃ。己を磨くために人は学ぶんじゃ。

どうですか？ 学校の勉強はしんどいかもしれないけれど、単なる受験突破を目的としているのではなく、「己を磨く」気持ちで学びを進めていきたいものです。そしてもう一つ。寅次郎が妹の文に語り掛ける台詞にも心を打たれるものがありました。

本は文字ではない。本は人じゃ。開けば触れる事ができる。ほかの人の考えに。

江戸におる人にも外国におる人にもとうの昔に亡くなった人にも出会う事ができる。

同じく悩んで同じく答えを見つけようとした誰かがおって教えてくれる。

その人の目で見た世の中の…人生のあらゆる事を。教えてくれる。

生きるに迷うとるんは自分一人じゃない事を。

もう一度、学ぶ目的について考え直してみませんか？ (文責 大島)

○理系の窓○

大学在学中に商品開発なんてどうですか？

◇信州大学工学部物質工学科「信大のこカレー」「信大のこハヤシ」

工学部がカレー?! 物質工学科では生体内での複雑な化学反応のすべてに関与している生体触媒を工学的なものづくりに応用し、新たな“食”を生み出しています。この商品は信州のきのこリングを使用しており、教授と学生が包装・デザインも含め研究を重ね開発されました。なんだか楽しそうじゃないですか？

◇三重大学生物資源学部資源循環学科「純米大吟醸梅酒三重大學」

梅酒です。この商品は地元酒蔵や観光部と連携し、学生が中心となって生み出したもの。三重県産の梅を使用して学生が手作業で処理し、なんと日本最大の梅酒コンテストにて第2位を受賞!

管理栄養学科や健康栄養学科など、直接食に関わる学科でなくても“食”をテーマに研究をしている学部学科はたくさんあります。例えば関西大学化学生命工学部生命生物工学科には食品工学研究室があり、食の健康のメカニズムについて研究しています。富山県立大学工学部生物工学科でも似たようなことが学べます。

農学部では生物資源学科をチェック。(文責 渡部)

☑総合学習の扉☑

第7回 総合学習の扉の中へ ~番外編~

センター試験がいよいよよみます。3年生の生徒は大変緊張していると思いますが、いままでしてきた自分の努力を信じて全力を出してほしいと思います。良い結果がでることを祈っています。

さて、2年生の生徒からするとセンター試験まで1年となります。2年生の窓でも書いてありますが、「あと、1年もあるんだ。」と思っている人はいませんか? そんな人たちは今年度を振り返ってみてください。たっぷり(受験)勉強できましたか? 多数の学校行事、部活動、友や家族との遊び、その他諸々…。様々なことをして時間が過ぎ去っていったはずです。たぶんベースは3年生になってもかわらないのでは? と思います。だからこそ、自分で意識して受験勉強をおこなってほしいと願います。

総合学習について、2年生も残り3ヶ月(実質2ヶ月)になりました。総合学習のまとめに入っていることだと思います。ゼミによってはすでにまとめを作成し、提出しているゼミもありました。今後の展望としては、各ゼミ内で自分(グループ)の研究テーマを発表し、ゼミ内で代表者を決定すると思います。その代表者による学年発表を最後2回で行う予定です。是非、自分が選ばれるように自分のまとめを再度見直し、良い発表となるように頑張ってください!

(文責 波勢)

○Book Review○

『蒼穹の昴』 浅田次郎



私の一番おすすめの小説です。舞台は清朝末期の中国。貧しい家庭に生まれた春児と、役人の過程に生まれた梁文秀、境遇は正反対だけれど、春児は梁文秀を兄と慕い、梁文秀も春児を弟のように可愛がっていました。梁文秀は科挙(中国の官僚登用試験。めちゃくちゃ難関で過酷。)に首席で合格、都で皇帝につかえます。一方春児は貧しい家族のために宦官となって西太后につかえます。政治の上で二人は対立関係になってしまうのですが、それぞれ秘めたる才覚を發揮しどんどん出世していきます。滅びゆく清朝の中で、懸命に生きていく人々の姿が描かれています。日本史の教科書に出てくる袁世凱も登場し、この小説を通して私は苦手だった中国史が面白く思えるようになりました!

さて、センター試験前日ということで、梁文秀が受験をした「科挙」について少し紹介をしましょう。中国の隋から清の時代まで約1300年も行われた官僚登用試験で、そりゃもう過酷なものなのです。小説の中にもその大変さは描かれています。科挙は解試・省試・殿試の3段階選抜で行われます。

解試の日程を紹介。

- ・受験生は独房に一人ずつ入れられる。持ち物は文房具、ふとん、なべ、食糧。
- ・独房にはカギがかけられ3日間閉じ込められて受験する。発狂する者もいる。
- ・合格率は0.01%の狭き門。

これに比べたら、センター試験なんてかわいいものだ! 明日は、落ち着いて、いつも通り試験に向かおう。応援しています。(文責: 渡部)